

令和4年度第6回 といかん本音トークまとめ ビジョンの取り組み優先度等について

2022/11月提示のビジョン素案
に対する意見把握結果

ビジョンの考え方について

- いろいろなことをいっぺんにやろうとしているようでオーバーフロー気味
- 空間的な不整合があった
- 参加者の問題意識との整合が不明なところがあった
- ⇒参加者が優先度が高いと思う課題と網羅的な計画との間にギャップがある
- 自分たちで作りに上げていく、積み上げていくことが、いずれ言葉になっていき、自分たちのものになるはず
- ビジョンを共有するものは、「体験」に他ならない。文章のみでは伝わらず、それを補完する共通の体験が必要
- 取り組みのプロセスがわかりやすく、先が見えることが大切
- 組織を作ろうとする意図と地域の思いとのギャップがすさまじく、自分たちの発案感がなく押し付けられ感がある

果樹園プロジェクトについて

- 春にもう一度畑お越しする
- 植樹に向けた準備、手順の整理
- 植樹の協力を依頼・・・研究林など
- R5、植樹、追肥、花芽とり、収穫、冬囲いなど活動予定の整理
- 電牧の整備

ビジョンの取り組みの整理

重要度 ⇒高
取り組みやすさ ⇒高
楽しさ ⇒高

当ビジョンの核となる活動

Ⅲ-1 おひさま・ワベンチャ-問寒クラブなど独自の子育て活動の展開
Ⅲ-2 地域みんながPTAの継続

⇒すでに皆が参加しているものであり、引き続き地域で支えていくべき。イベント時のマンパワー、指導員、調理ノウハウなど

⇒しっかり継続

V-3 土地の活用による共同果樹園（ブルーベリーなど）

⇒共同果樹園から様々な業種の連携を開始
⇒仕事の共有・大人の職場体験として
ex)牧草刈りなど支援できるようになるかも

V-1 人材の融通としごと・サービスの共同化（共同配食、人材確保・育成など）
V-2 新たな働き方による労働力の確保（プチビジネスハローワークなど）

VII-2 「といかん市」を使った地域の良さの再発見

いろいろな人、場所、時期の実施を試行
取り組み発展？

I-1 いつでもみんなが気軽に集まれるたまり場づくり
I-2 しょうがい者や高齢者など地域みんなの活躍の場づくり

II-1 多様な働き方・住まい方に対応した住宅づくり（リモートワークなど）
II-3 アグリコレクティブハウジング（農村の共同住宅）

⇒「住まい」は重要課題
⇒公住でよいのか？民賃、シェアハウスのニーズ調査が必要
⇒高齢者のみではなく他世代が混ざるほうがよい
⇒変化する需要に対応する（今のニーズだけで組み立てない）
⇒住んでいる人を見て別の人に住みたいと思うことも大切

⇒次回はテーマを絞って「住まい」をテーマに話そう！

IV-1 住民による地域のインフラや生活サービス運営（交通、公営住宅管理等）
IV-2 役場機能の代替
IV-3 地域運営・活動の企画

⇒町内会の仕事の代替など課題解決のため実施
⇒儲け口として役場からの委託を活用する手もある

⇒課題解決に必要な取り組みをじっくり検討

IV-4 地域の情報収集と発信（情報端末の活用など）

⇒気軽に発信できる方法が必要
⇒内向けと外向けが必要（分けたほうが良い）
⇒公式LINEくらいでよいのではないかと

⇒情報告知端末の活用を含めてすぐやろう